

経営情報学会 2020 年全国研究発表大会

森本千佳子（もりもと ちかこ）
東京工科大学コンピュータサイエンス学部

2016年、ICTの高度な活用によって実現する新しい社会として内閣府より Society 5.0 が提案されました。日本の抱えている高齢化社会、ホワイトカラーの生産性向上などの課題を解決することが目的でした。わたしたちはICTを高度に活用した新しい生活に進み出していました。そこへ、2020年のCOVID-19の感染拡大を契機に、「新しい日常」という社会生活が提案されました。社会も日常生活も、春からの三度の感染の波に対し一気に「新しい日常」への対応が求められました。今も企業においてはテレワーク、大学においては遠隔授業など、ICTを活用した日常が展開されています。Society 5.0で目指したものと、必ずしも同じではありませんが、急速にICTを基盤とする社会に変革することになりました。

2020年全国研究発表大会は、この社会の変革を背景に「Society 5.0とその先へ—ICTで迎える新しい日常—」をテーマに、11月7・8日の両日、オンラインにて開催されました。当初は東京工科大学八王子キャンパスで開催するべく準備をしていましたが、COVID-19感染拡大の状況によりオンラインの開催となりました。

全日程を通じて、48件の口頭発表（うち2件が企業事例セッション）、26件のポスター発表、1件の研究部会セッション、1件の基調講演が行われ、また、1件の展示ブースも開設されました。会員・非会員合わせて154名が参加者する盛会となりました（うち懇親会参加：51名）。以下、時系列で報告させていただきます。

1. 大会1日目

大会1日目は、開会式・学生発表・研究発表・企業事例セッション・ポスターセッション・展示ブース・懇親会等を行いました。

(1) 開会式

開会式では、妹尾大学会長や開催校からの挨拶が

行われました。初めてのオンライン開催ということで、受付の混雑などが心配されましたが、大きな混乱もなくスムーズに大会が始まりました。

会長の挨拶に続き、2020年度論文賞の発表が行われました。論文賞は、2019年3月刊の第28号4巻に掲載された、熊田ふみ子・倉橋節也「多様性が組織の成果に及ぼす影響—フォールトラインによる考察—」が獲得しました。オンライン表彰のため画面に表彰状とトロフィーを映してのエア授与となりました。

(2) 研究発表・学生発表

発表は複数のZoomを発表会場に割り当てて行いました。研究発表では「ビジネスモデル」、「経営戦略」、「政府自治体」をテーマに熱心な議論が行われました。顔が見えない分、奇譚のない意見交換ができたようです。

学生発表でも盛んな議論が行われました。そのうち以下の5件が学生発表優秀賞として選ばれました。

- 店舗利用波及効果を考慮したマーケティング資源の最適化手法の提案
佐々木誠治（岩手県立大学大学院）、後藤裕介（岩手県立大学）



論文賞の表彰状とトロフィー

○URAの経験の多様性が生む大学発ベンチャーに関する実証研究

菊池百々帆（東京理科大学），大江秋津（東京理科大学）

○企業関係に基づく株価変動の予測性：通常時とコロナ・ショック時の比較

坂本将磨（東京工業大学），仙石慎太郎（東京工業大学）

○残余利益CAPモデルによる競争優位期間と無形資産価値の測定

小林秀二（東京大学）

○認知バイアスが明治日本の評価体系にもたらす影響—お雇い外国人のハロー効果に関する実証研究—

白石梨紗（東京理科大学），大江秋津（東京理科大学）

(3) ポスター発表

学会の「萌芽」研究をもっとフォーカスしているという方針に合わせ、今大会から萌芽研究もポスター発表として募集した結果、26件の発表がありました。Zoomを使ったポスターレビューに続き、発表者ごとに設定されたSkype Meet Nowを使って活発な意見交換が行われました。

(4) 懇親会

懇親会もオンラインで開催されました。冒頭で竹田大会委員長から企業事例セッションの表彰が行われました。受賞は以下の通りです。

○ホワイトカラーの生産性向上を目指した業務改善の取り組み事例—作業手順の可視化とRPAの適用—
瀬川昂希（レールテック），金田梨加（レールテック），大隅啓介（レールテック）

表彰に続いての懇親はZoomのブレイクアウトルームを利用して行われました。メンバーをシャッフルしながらの懇親でしたが予定した時間を越えて大いに盛り上がりました。

2. 大会2日目

大会2日目は、基調講演・研究発表・研究部発表表を行いました。

(1) 基調講演

基調講演として、「個人的で普遍的な事業づくり、それによって生まれる、しなやかでタフな経済圏」というタイトルで、文字を読み上げるメガネ〈OTON GLASS〉の開発者の一人である、株式会社オトングラス代表取締役 島影圭佑氏よりご講演をいただきました。簡単なワークを交えてのアクティブな講演で、非常に新鮮な体験となりました。

(2) 研究発表

研究発表では「人材能力開発」、「マーケティング・シミュレーション」、「組織」、「事業開発」、「情報システム」をテーマに発表が行われました。終了予定時間まで活発な議論が行われました。

3. むすび

急な開催方式の変更にも関わらず、基調講演など各種企画を通じて、ICTとともに歩む社会について多くの研究が積極的に展開されました。

また、ご参加いただいた皆様のおかげで、Society 5.0を新しい生活様式とともに加速させる斬新な口頭発表・ポスター発表を集めることができました。

今大会は、大会運営も「新しい日常」に対応すべく、準備段階から一度もスタッフが集まること無くすべてオンラインとなりました。そのため、準備段階ではSlack, Discord, Google Drive, 大会当日はZoom, Skype Meet NowとさまざまなITツールを活用しました。その中で、オンラインだからこそ出来ること、オンラインだから出来ないことに数多く直面しました。これからの時代の大会運営のあり方を考えることに繋がりました。

妹尾会長はもとより、学会理事、セッション座長、実行委員・プログラム委員、現地スタッフの尽力で、盛況のうちに終えることができました。厚く御礼申し上げます。